

至仏山山行報告

【山行日】2023年 8月 11(金) 晴れ

【集 合】岩舟支所P AM 4:00

【費 用】マイカー1台 : 5,900円

【メンバー】CL:鈴木ユ、SL:関

飯野、鈴木ミ、福島、

【コースタイム】岩舟支所P4:00＝戸倉 P5:40/6:00

～鳩待峠 6:30/6:50～山ノ鼻 7:40/8:00～至仏山

10:55/11:40～小至仏山 10:25/10:40～オヤマ沢

田代 12:30/12:40～鳩待峠 13:35/14:00＝戸倉

P14:30/14:40＝道の駅「かたしな」14:55/15:15＝

岩舟支所P17:00



久しぶりに尾瀬至仏山のリクエストがあり、山ノ鼻から専用登山道を登り、鳩待峠に下るコースを計画した。山の日の祝日とお盆が合わさる連休の為混雑を予測し、岩舟支所を4:00に出発し戸倉



の駐車場に向かう。北関東道から関越道に入ると車の量が増え、渋滞にはならないがスピードが遅くなる。沼田 IC から国道121号線を進み、戸倉の第一駐車場に着くと広い駐車場は9割くらい車が止められている。空いているスペースを見つけ、車を止めて出発の準備を整え券売機がある管理棟へ移動する。券売機で鳩待峠までのチケットを購入し、待っているワゴンタクシーに乗車する。30分程で鳩待峠P に到着し、トイレとストレッチを済ませて出発する。鳩待峠からは山ノ鼻に向かって緩やか

に下って行くが、山の日なので大勢のハイカーが歩いていた。1時間足らずで山ノ鼻に着き、トイレ

を済ませたら尾瀬植物研究見本園の湿原に移動する。ベンチで休憩を取ってゼリーやトマトをいただき、これから登る至仏山を「これからあそこまで登るんだ」と闘志がわいてくる。イワショウブやサワギキョウ等の花を見ながら湿原を西に少し歩くと、まもなく至仏山の登山口がある。ここから登り専用の登山道を登って至仏山頂を目指す。樹林帯の中に付けられた登山道は急で、岩や木段が連続する急坂を登って行く。森林限界を抜けると陽射しを受け、暑さで汗が一気に噴き出してくる。暑さで休んでいる登山者を次々に抜いて行き、我々も途中のベンチで休みながら高度を上げて行く。



高天ヶ原と呼ばれるベンチで休憩し、尾瀬ヶ原の絶景を見下ろしながら冷たいプリンをいただく。ここからも木段や岩の道が続くが、展望が開けお花も見られるので気持ちよく歩ける。ハイマツが



見えてくると山頂が近くなり、ハイマツの間を登ると山頂に飛び出た。大勢の登山者で賑わっており、山頂碑の前で写真を撮るのも順番待ち。山頂で記念写真を撮ったら空いている場所に移動し、それぞれ岩に腰かけてランチタイム。お湯を沸かしてカップ麺やカップライスを作り、トマトやキュウリの漬物、ゴーヤの胡麻和え、ゴーヤのツナサラダを美味しくいただいた。ランチが済んだら記念写真を撮り、展望を楽しんだら下山開始する。下山は小至仏山からオヤマ沢田代を經由し鳩

待峠に向かう。小至仏山への道は登りと一変し、岩稜とお花が咲く楽しい登山道を下って行く。しかし蛇紋岩の道はとても滑りやすく、滑らないよう慎重に降りて行く。タカネナデシコ、ヒメシャジン、ヨツバシオガマ等々の花が見られ、楽しく下って行く。前方に聳える小至仏山を見て「小至仏山への登りはイヤだ〜」と言っていたが、鞍部から10分足らずで登り岩場の山頂から展望を楽しむ。

ここからも蛇紋岩の急な下りが続いたが、慣れたせいか皆さん楽しそうに下って行く。オヤマ沢田代手前の小湿原のベンチで休憩し、尾瀬ヶ原の展望を楽しみながら冷たいゼリーをいただく。

湿原にはキンコウカやコバノコゴメグサの花が見られ、疲れた体を癒してくれた。ここから下ると直ぐに笠ヶ岳への分岐があり、オヤマ沢田代を過ぎると樹林帯の登山道に入る。展望のない単調な登山道を下って行き、1866.9mピークを巻いて下ると鳩待峠は近くなる。先行する



若者を2組抜いて、ブナ林を抜けると鳩待峠に着いた。休憩所にザックを置いてトイレを済ませ、売店でかき氷やソフトクリームを買っていただいた。かき氷は乾いた喉に最高のご褒美で、世の中の食べ物の中で一番美味しく感じた。バスのチケットを購入して駐車場に移動し、直ぐにバスに乗って戸倉の駐車場に向かった。戸倉の駐車場に到着、靴を履き替えた後、帰路につく。途中、道の駅「かたしな」によって買い物したが、ここで買ったトウモロコシが最高に甘く美味しかった。心配した関越道や北関東道も渋滞が無くスムーズに走り、予定よりも早く岩舟支所に到着した。